

平成 17 年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」

# 人間性とキャリア形成を促す学校 Internship

小中高大連携が支える実践型学外教育の大規模展開

## 特色GP第1回公開シンポジウム

関西大学は教育委員会との連携協力関係のもとに、主として教職を志望する学生が学校現場におもむき、教員のさまざまな仕事のお手伝いをする中で、自分自身の人間性の涵養とキャリア形成に役立てる、学校インターンシップを進めています。2005年度は、学校側から合計約1600名の学生受入申込をいただき、約300名の学生を派遣いたしました。

この取組は、当初から構想していた教職志望者へのキャリア教育という目的はもちろん、大学が責任をもって学生を面接選考し、事前講習を施し、学外での活動を体験させ、大学での事後講習を経て単位認定をするという実践型学外教育であるとともに、大学生が受入校教員のご指導のもとに高校生、中・小学生たちの成長のお役に立つという、学生の力を巻き込んだ新たなタイプの小中高大連携であり、若い世代と若い世代をつなぐ試みでもあります。

今回、取組の成果を検証するとともに、大学教育に造詣の深い方々、学校教育の実際に携わっている方々をお招きし、

- (1) 大学教育における学外型実践教育のもつ意義と可能性
- (2) 高校、中・小学校、幼稚園等にとっての大学生派遣の意義と可能性
- (3) 教員養成に関わる大学教育における実践教育のもつ意義と可能性

をめぐるシンポジウムを開催します。どうぞ奮ってご参加いただきますよう、お願い申し上げます。

**日 時** : 2006年2月16日(木) 13:30-16:45

**場 所** : 関西大学 尚文館 マルチメディアAV大教室

**内 容** : 13:30-13:35 《開会挨拶》 河田 悌一 (関西大学 学長)

13:35-14:15 《基調報告》 関西大学 学校インターンシップの取組

品川 哲彦 (関西大学 学長補佐・高大連携運営委員長)

14:30-16:45 《シンポジウム》 学校インターンシップの意義と可能性

江原 武一 (立命館大学 大学教育開発・支援センター教授)

大江 淳良 (ユニバーシティ・アクティブ代表取締役)

生田 義久 (京都市教育委員会 教育企画監)

**入場自由・参加費無料**

問合せ先 : 関西大学高大連携推進事務室 Tel. 06-6368-1184

URL : <http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/>

<会場へのアクセス> 阪急千里線関大前駅にて下車。北出口を出て、関西大学正門へ。

正門を抜けてすぐ左手の坂を上りきって、右手の建物(尚文館)が会場となります。



## ★ 本シンポジウムの問題提起

### 大学生がキャンパスの外で学ぶ——その意義と展望

私たちは学校インターンシップの試みから事前の想像を超えた教育効果を見出しました。それは、年少者に接することでおとなとしての自覚を得た学生の人間的な成長です。2002 年の中教審答申「新しい時代における教養教育の在り方」は、インターンシップ、留学体験などキャンパスの外での活動を大学教育のなかに積極的にとりいれるように提言しました。関西大学の学校インターンシップはそうした試みのひとつです。——しかし、私たちはその教育効果に目をみはりながらも、なお模索しています。キャンパス外での実地体験を大学教育のなかにどのように位置づけるべきか？ 人間形成は教育の究極の目標だけれども、大学というシステムがどこまで、どのようにしてそこに寄与できるのか？ 本シンポジウムでは、この点について関心を共有する方々と実りある意見交換をいたしたいと望んでおります。現在の大学教育改革に関心のある方々は、ぜひ、ご参加ください。

### 大学生が学校現場にやってくる！——その意義と展望

昨年、今年と 300 名前後の学生を高校、中・小学校、幼稚園等に派遣できるとは、これもまた私たちにとって予想外の進展でした。これはひとえに大学生を積極的に受け入れてくださる学校・園のご協力の賜物ですが、私たちはそれによって学校インターンシップのなかに“若い世代と若い世代をつなぐ機会を築く可能性”“学校・園と大学、さらにそれらが位置している地域社会全体で若い世代を育てていく可能性と必要性”を見出しました。しかし残念ながら、教育委員会、学校・園の関係者と大学関係者とが一堂に会する機会はふだんあまりありません。本シンポジウムを意見交換の貴重な機会として生かしたいと望んでおります。教育委員会、学校・園関係者の方々は、ぜひ、ご参加ください。

### 教員養成における教育実習以前の就業体験——その意義と展望

教育実習は卒業年次に行うのが通例なのに対して、関西大学の学校インターンシップは1年次から体験できます。学校インターンシップの体験を通じて教職志望を固めた学生も数多く出ています。今、学校教育はさまざまな問題に直面しており、志操の高い教員の養成が求められています。将来の教員の養成という観点からみて、教育実習以前に学校現場を体験することがどのような意義をもちうるのか？ 本シンポジウムでは、学校インターンシップの取組を紹介し、忌憚のないご意見を頂戴したいと望んでおります。これからの日本の学校教育に期待される教員像に関心をおもちの方々は、ぜひ、ご参加ください。

////////////////////////////////////

### ☆パネリストのプロフィール

- 江原武一氏： 高等教育の国際比較を中心に比較教育学、教育社会学の分野で長年研鑽を積んでこられた。特色GPの選考に携わる。  
大江淳良氏： (株)リクルートを経て現職。「大学解体業」と自称され、舌鋒鋭く日本の大学の現状を分析。特色GPの選考に携わる。  
生田義久氏： 京都市教育委員会において、長年、教育行政に関わる。全国をリードする京都市の教育改革を総括する。